

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばれっと		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日	～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)
			38
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日	～	令和8年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)
			11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◆学習サポート×コグトレの両立	【学習の土台から支える支援・難しい理由にアプローチする訓練】 ◎学習の遅れだけではなく、「認知機能」からのアプローチを行う ◎注意・記憶・思考力など基礎力を育てる支援を行う	●失敗体験を減らし、「できる」を積み重ねる設計を行う ●子ども自身が効果や成果を実感できる工夫
2	◆専門職の多職種連携	【多角的な視点による支援と専門性を活かしたチーム支援】 ◎心理士：認知・言語理解・情緒面の評価を行う ◎言語聴覚士：言語理解・表出支援を行う ◎保育士：日常生活・集団適応の支援を行う	●難しい専門性を現場レベルに変換する ●誰でも同じ支援が出来るようになる
3	◆アセスメントに基づく個別支援	【根拠に基づく個別支援・評価→支援→再評価の循環】 ◎コグトレや検査結果(事業所内外)を支援に反映する ◎根拠のある支援を行う	●個別支援の質を維持しながら集団での学びも確保する ◆内部研修や、ケース検討会の実施を行う

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◆成果が見えにくくなる場合がある	●認知機能向上は変化が緩やかで実感しにくいところがある	●評価指標を設定し、変化を数値化するなどして共有する
2	◆学校との連携が弱くなりがちである	●独自のプログラム中心で学校との接続が薄くなる	●学校課題と連動した支援内容を取り入れる (定期的な関係連携を行う)
3	◆第三者評価を受けていない	●支援内容について、また制度上の認識誤りがないかをチェックする「外部チェック」は受けているが、第三者評価としては評価を受けていない	●依頼先の検討を行う